

第 33回浜松市民レクリエーション・スポーツ大会審判講習会 確認事項

◎ ファミリーバドミントン

- ・ サービス時の審判の役割に関して
 - ⇒副審はサービス側のサービスラインを確認した後、直ちにネットまで戻る
 - ⇒レシーバー側の線審はバックラインのセンターライン延長上に移動する
 - ⇒線審は、サービスのイン・アウトとラインクロスをジャッジする
 - ⇒主審と副審で、線審の位置確認を指示する
- ・ サーブについて
 - ⇒前足が床に接していれば、OK とする
(後ろ足は離れていても問題はない)
- ・ スマッシュについて
 - ⇒あくまで打球の角度によって、判断する
(ラケットが上を向いていても同様に判断する)
- ・ サービス時の前衛の立ち位置について
 - ⇒後衛の場所に移動しても、スマッシュすることはできない

第33回浜松市民レクリエーション・スポーツ大会審判講習会 確認事項

◎ スーパードッジ

- ・ 審判についての確認
 - ⇒主審は「得点板」「時計」「監督」が存在する側に立つこと
 - ⇒主審はセンターライン付近で静止せず、ボールが見やすい位置まで移動してジャッジできるようにすること
 - ⇒主審はゲーム終了が分かるよう、『主審』が1連のプレーが終わったことを確認し、長めにホイッスルを吹く
 - ⇒副審は周りに見えるように、投球がパスかアタックかどうか分かるよう、パスの回数を指で指し示す
 - ⇒1人の線審がフラッグを上げたら、主審・副審が気づくよう全員が同じ動作を行う
 - ⇒開始・終了のあいさつは、主審・副審・線審が一列に並び
- ・ 選手交代について
 - ⇒選手交代は、要求側の「マイボール」になったタイミングで行う（その際は時間を止める）
 - ⇒上記のタイミングとなるまでは、主審はそれを実行しない
- ・ はちまきの取扱いについて
 - ⇒選手自身のポケットがない場合は、チームで管理する（首にかけたままにするのは、競技規則でも禁止されている）
 - ⇒『主審』は、選手が速やかにはちまきをポケットにしまい、ポジションに位置したことを確認して笛を吹く。
- ・ 5秒ルールの徹底
 - ⇒5秒たった際は相手ボールになるが、見落としがちなので注意する
- ・ ヒットの確認
 - ⇒頭にボールがあたった場合で、主審はその該当選手が故意に当たりに行ったと判断した場合は、1回目は警告を行い2回目以降は反則とする

◎ ビーチボール

- ・ サーブについて
 - ⇒サーブトスの高さは、ボールの下面が肩の高さを超えると反則とする
 - ⇒サーブ側・レシーブ側ともサーブを打ち終わるまで、しっかり静止する

- ・ 隣接コートにボールまたは選手が入ってしまった場合について
 - ⇒隣接コートからボールまたは選手が入った場合は、審判は安全確保のためただちにプレーを止める（気づいた主審・副審・線審のいずれか）
 - ⇒上記の場合は、ノーカウントとなりプレーをやり直しする

- ・ 出場選手の男女比について
 - ⇒基本は同数であるが、男性が「2 名以下」であれば OK とする